

平成30年度特別支援教育に関する実践研究充実事業  
 (次期学習指導要領に向けた実践研究)  
 成果報告書 (概要)

受託団体名
高知県教育委員会

## 1 指定校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名 (ふりがなを付すこと)
高知県	特別支援学校	病弱	高知県立高知江の口養護学校 ※平成 31 年 4 月 1 日から 高知県立高知江の口特別支援学校
高知県	特別支援学校	聴覚	高知県立高知ろう学校
高知県	特別支援学校	知的	高知県立日高養護学校 ※平成 31 年 4 月 1 日から 高知県立日高特別支援学校

## 2. 事業の実績

## (1) - ①事業の実施日程【高知江の口養護学校】

実施時期	実施内容	評価事項
平成 30 年 5 月	○研究目的・仮説・内容を教員間で共有	
平成 30 年 6 月	○第 1 回 ICT 機器を活用した「主体的・対話的で深い学び」の実践研究における校内研修会「ASD について」 高知大学 准教授 松本 秀彦 氏	・児童生徒の実態と学び方の特性について、個別の指導計画への記載の徹底
平成 30 年 6 月 ～7 月	○病弱教育における「主体的・対話的で深い学び方シート (試案)」の作成 (ワークショップの実施)	
平成 30 年 7 月	○第 2 回 ICT 機器を活用した「主体的・対話的で深い学び」の実践研究における校内研修会「ADHD について」「読み書き障害について」 高知大学 准教授 松本 秀彦 氏 ○校内研修会「病弱教育における主体的・対話的で深い学びについて」 関西学院大学 教授 丹羽 登 氏	
平成 30 年 8 月	○全教員による「学び方シート (試案)」の検討 (ワークショップ) ○第 3 回 ICT 機器を活用した「主体的・対話的	

	で深い学び」の実践研究における校内研修会 「事例検討①」 高知大学 准教授 松本 秀彦 氏	
平成 30 年 8 月 ～9 月	○「学び方シート（試案）」の検討 ○授業（学び方）改善のための指導案等様式の 検討・提案	
平成 30 年 9 月	○第 1 回全教員公開授業実施及び課題検討 ○第 4 回 ICT 機器を活用した「主体的・対話的 で深い学び」の実践研究における校内研修会 「事例検討②」 高知大学 准教授 松本 秀彦 氏	・ 授業評価 ・ 学習評価
平成 30 年 11 月	○ICT 機器を有効に活用した「主体的・対話的で 深い学びについて」の校内研修会	
平成 30 年 11 月 ～12 月	○第 2 回全教員公開授業実施及び課題検討	・ 授業評価 ・ 学習評価
平成 30 年 12 月	○教育課程研究集会（病弱部会）の実施 実践と課題の共有	・ グループワークによる 自己評価と課題整理
平成 31 年 1 月	○第 5 回 ICT 機器を活用した「主体的・対話的 で深い学び」の実践研究における校内研修会 「事例検討③」 高知大学 准教授 松本 秀彦 氏	
平成 31 年 2 月	○第 6 回 ICT 機器を活用した「主体的・対話的 で深い学び」の実践研究における校内研修会 「事例検討④」 高知大学 准教授 松本 秀彦 氏	
平成 31 年 1 月 ～2 月	○研究のまとめ	・ 授業の変容 ・ 生徒の変容

(1) -②事業の実施日程【高知ろう学校】

実施時期	実施内容	評価事項
平成 30 年 4 月	○手話研修会の内容と実施計画の作成（専門性 向上委員会にて）と外部専門家との研修会の 内容の詳細についての検討	
平成 30 年 5 月	○手話研修会① （手話でのスピーチと協議と評価） ○公開研究授業に向けた ICT 機器の活用につ いての教科・領域での検証 ○授業のスタンダードと各学部の授業評価票 の再検討（コミュニケーションと ICT 機器 の活用に関する項目の追加）	・ 外部専門家による評価 （ビデオを省察し、個々の 課題についての評価）

平成 30 年 6 月	○手話研修会② (手話でのスピーチと協議と評価)	・ 外部専門家による評価 (ビデオを省察し、個々の課題についての評価)
平成 30 年 6 月 ～7 月	○「主体的・対話的で深い学び」に向けた 1 回目の公開研究授業の実施	・ ビデオによる省察 ・ 授業評価票による評価 ・ 授業スタンダードによる 評価
平成 30 年 7 月	○寄宿舎指導員の手話研修会③～⑤ (日常生活で使用する手話表現の方法) ○各学部で 1 学期の成果と課題のまとめ及び 2 学期以降の研修計画の確認 ○ICT 機器の活用についてのアンケートの実施	・ 外部専門家による評価 (基礎的な手話表現につ いての評価)
平成 30 年 8 月	○手話研修会⑥ (手話でのスピーチと協議と評価)  ○外部の外部専門家を招き、「主体的・対話的 で深い学び」につなげるための研修会の実 施 【本校講座Ⅰ】の実施 「幼児児童生徒の読み書きの力・思考力をつ けるための方策」 筑波大学 准教授 左藤 敦子 氏 【本校講座Ⅱ】の実施 「聴覚障害教育に求められるもの」 藤女子大学 教授 原田 公人 氏	・ 外部専門家による評価 (ビデオを省察し、個々の 課題についての評価)
平成 30 年 9 月	○手話を活用した授業に向けた研修会の実施 【本校講座Ⅲ】 「手話の活用とことばの獲得」 愛知教育大学 特別教授 小田侯朗氏 ○教育課程研究集会(聴覚障害部会)の実施	
平成 30 年 9 月 ～12 月	○「主体的・対話的で深い学び」に向け、ICT 機器を活用した 2 回目の公開研究授業の実 施	・ ビデオによる省察 ・ 授業評価票による評価 ・ 授業スタンダードによる 評価
平成 30 年 10 月	○手話研修会⑦ (手話でのスピーチと協議と評価)  ○校内研修会「ICT 機器の活用～各種アプリの 活用～」	・ 外部専門家による評価 (ビデオを省察し、個々の 課題についての評価) ・ アプリの活用状況

平成 30 年 11 月	○手話研修会⑧ (手話でのスピーチと協議と評価)	・外部専門家による評価 (ビデオを省察し、個々の課題についての評価)
平成 30 年 12 月	○手話研修会⑨ (手話でのスピーチと協議と評価) ○校内手話検定の実施 (単語と短文の読み取りの筆記試験) ○各学部で 2 学期の成果と課題のまとめ及び 3 学期以降の研修計画の確認	・外部専門家による評価 (ビデオを省察し、個々の課題についての評価)
平成 31 年 1 月	○手話研修会⑩ (手話でのスピーチと協議と評価)  ○校内手話検定の実施 (聴覚障害者協会から派遣された検定員によるスピーチと質問への返答の面接試験)	・外部専門家による評価 (ビデオを省察し、個々の課題についての評価、平成 30 年度の研修会の成果と課題) ・手話力の向上についてのアンケートによる自己評価 ・校内手話検定試験による級の取得
平成 31 年 2 月	○各学部の研究の報告会 外部講師による助言 愛媛大学 准教授 加藤 哲則 氏 ○研究の成果及び課題のまとめと、次年度の研修計画の立案	
平成 31 年 3 月	○年間の取り組み内容の検証	・手話検定 ・学校評価アンケート

(1) - ③事業の実施日程【日高養護学校】

実施時期	実施内容	評価事項
平成30年4月	○学部研究テーマ等の協議	
平成30年5月	○各グループの実践 (研究テーマ、取組計画検討)	
平成30年6月	○各グループの実践 (研究進捗状況等報告、改善点等確認) ○校内研修会における外部講師講義 「主体的・対話的で深い学びの視点を生かした取組」 群馬大学 教授 霜田 浩信 氏 ○高等部3年生公開授業	・外部講師より講義及び「授業チェックシート」について協議  ・「授業チェックシート」活用開始

平成30年7月	○高等部1、2年生公開授業 ○公開授業事後協議 ○校内研修会における外部講師講義 研究と公開授業・協議への指導・助言 群馬大学 教授 霜田 浩信 氏	・外部講師より講義及び「授業チェックシート」、「学習過程分析表」について協議
平成30年8月	○教育課程研究集会における研究報告	・本校の取組の中間報告及び「学習過程分析表」の活用について報告
平成30年9月	○各グループの実践 (研究進捗状況の報告、改善点等の確認)	
平成30年10月	○高等部1、3年生公開授業	・「学習過程分析表」の活用開始
平成30年11月	○公開授業事後協議 研究と公開授業・協議への指導・助言 高知県立大学 教授 石山 貴章 氏	
平成30年12月	○高等部2年生公開授業 ○公開授業事後協議	
平成31年1月	○実践集録の作成に向けた協議等 研究と公開授業・協議への指導・助言 高知県立大学 教授 石山 貴章 氏	
平成31年2月	○研究の反省	
平成31年3月	○実践集録発表会及び外部講師による講評 成果発表への指導・助言 群馬大学 教授 霜田 浩信 氏 高知県立大学 教授 石山 貴章 氏	・外部講師による講評及び学習過程分析表の活用をはじめとした来年度の方向性について協議

## (2) 研究課題

「主体的・対話的で深い学び」の実現には、障害種別ごとの特性などを踏まえる必要があることから、その捉えや、何をねらいどのように授業を展開するのかなど、実践研究を通して明らかにしていく。

## (3) 研究の概要

高知県では、本実践研究事業を活用し、病弱・聴覚障害・知覚障害の3障害種の特別支援学校において、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた実践研究を実施した。

一年次である平成30年度は、各指定校において障害の特性などを踏まえた「主体的・対話的で深い学び」をどのように捉えるのかを整理した。また、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何が身についたか」という視点を大切に、「個々の児童生徒の調和的発達をどのように支援するか」「実施するためには何が必要か」といった観点から現在の取組を捉え直し、課題を整理してカリキュラム・マネジメントと関連付けながら授業の改善・充実を図った。

#### 【高知江の口養護学校】

病気による学習空白や学び方の特性など、児童生徒の実態を踏まえた「主体的・対話的で深い学び方」について全教員で共通理解を深め、病弱教育における「主体的・対話的で深い学び方シート（試案）」を作成し、授業改善に取り組んだ。

#### 【高知ろう学校】

児童生徒の「分かる」「できる」を大切に「高知ろう学校版授業のスタンダード」を再検討し、手話力向上プロジェクト、ICT推進プロジェクトの2本柱で研究を推進し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け授業改善に取り組んだ。

#### 【日高養護学校】

知的障害特別支援学校における「主体的・対話的で深い学び」について教員の共通理解を図った。また、「主体的・対話的で深い学び」の各要素が学習活動にどのように含まれているのかが分かるように「学習過程分析表」を作成した。本分析表を使用し、高等部の全学年で公開授業の事後協議等を通して検証している。

### （4）研究の成果

本研究を通して、各障害種別の特性などを踏まえた「主体的・対話的で深い学び」をどのように捉えるのかについて、理解を深めることができた。そのうえで、児童生徒の学びの姿や授業分析の視点を教員が共通して捉えるために「主体的・対話的で深い学び方シート（試案）」「高知ろう学校版授業のスタンダード」「学習過程分析表」が作成・改善され、これらを活用して「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の取組を進めることができた。

#### 【高知江の口養護学校】

年8回の外部専門家からの助言を得て、病弱教育における「主体的・対話的で深い学び」について全教員で共通理解を図った。本校児童生徒の学びの姿を検討し、病弱教育における「主体的・対話的で深い学び方シート（試案）」を作成した。全教員がICT機器を使った公開授業を年2回実施し、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業例ができた。

#### 【高知ろう学校】

手話検定を受検した19名の教員全員が、現在の取得級より1つ上の級を取得し、教員の手話力が向上した。また、全教員が年2回公開授業でICT機器を活用した授業づくりを行った。児童生徒に伝わりやすい表現や分かりやすい方法で授業改善を進めたことで、児童生徒の言語力に向上がみられ、コミュニケーション力が高まるなど、主体的で対話的な学びにつながった。

#### 【日高養護学校】

年2回の外部講師の講義等を通して、「主体的・対話的で深い学び」について教員間の理解が深まった。高等部全学年で年2回の公開授業を実施し、研修で学んだ内容を実践につなげることができた。外部講師の意見を反映させた「学習過程分析表」を作成し、授業に「主体的・対話的で深い学び」をどのように盛り込んでいくのか、実践を通して整理することができた。

### （5）課題と今後の方策

病弱・聴覚障害・知的障害のそれぞれの特性を踏まえた「主体的・対話的で深い学び」について、更に理解を深め、有効な指導に結び付くように整理が必要である。特に、児童生徒の学びの変容についてどのように捉えるのか、評価の在り方については、3校に共通した課題である。また、成果を共有して

いくことも課題である。

次年度は、平成30年度の成果と課題を踏まえ、授業改善の取組を児童生徒の学びの変容の視点から見直すなど、作成・改善したツールを活用して授業改善のPDCAサイクルをシステムとしても確立し、新学習指導要領で求められている資質能力を育む「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた実践研究に取り組む。特に高等部段階においては、卒業後を見据えた「主体的・対話的で深い学び」の在り方を検討し、授業実践へとつなげていく。また、研究成果や課題について、視覚障害や肢体不自由も含めた全ての障害種で情報共有できる場を設定する。

**【高知江の口養護学校】**

「主体的・対話的で深い学び方シート（試案）」を見直し、更なる授業改善への効果的な活用方法を検討する。また、児童生徒の特性やICT機器の操作力などを踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」につながる実践事例を蓄積し、効果的な事例を収集していく。

**【高知ろう学校】**

教員の手話力の向上やICT機器の活用が、児童生徒の学びの変容に結び付いているのか、客観的に捉えることが必要である。そのために、児童生徒アンケートの項目の変更や、「高知ろう学校版授業のスタンダード」の更なる検討が必要である。

**【日高養護学校】**

「学習過程分析表」の活用に取り組んだが、継続した項目の検討や「学習過程分析表」を通して「主体的・対話的で深い学び」について教員間で更に理解を深める必要がある。また、「主体的・対話的で深い学び」の要素と児童生徒の学びの変容とをつなげて整理していく必要がある。